

キウイフルーツ「 Hayward 」の徒長枝の摘心時期と程度

〔要約〕 キウイフルーツ「 Hayward 」では圃の柵下を明るくするために枝抜きを行う場合は6月下旬に3 cm程度の強摘心を、また、強い結果母枝を確保したい場合は5月中旬に30 cm程度程度の摘心を行えばよい。

長崎県果樹試験場・落葉果樹科

専門

栽培

対象

果樹類

分類

指導

平成4年度長崎県果樹試験場業務報告

〔背景・ねらい〕

キウイフルーツは主枝や亜主枝の背面から徒長枝が発生しやすくそのまま放置しておくと柵面が過繁茂となり早期落葉しやすくなる。また、このような枝は立ち性なのでそのままでは次年度の結果母枝としては利用しにくい。そこで柵面を明るくするための摘心と結果母枝を確保するための摘心についてその時期と程度を明らかにした。

〔成果の内容・特徴〕

- ① 6月下旬に摘心を行うと再発芽後の新しょう長が短い。特に徒長枝を3cm残して強摘心するとほとんど再発芽がみられない（表1）。
- ② 5月中旬に15cm及び30cm残して摘心を行うと再発芽がみられ、その後の伸長も旺盛である（表1）。

〔成果の活用面・留意点〕

- ① 樹勢が弱い樹での摘心は樹勢低下を助長するので行わない。
- ② 気象条件によっては摘心の時期がずれる可能性がある。

[具体的データ]

表 1 摘心処理の時期、程度とその後の新しょう長及び葉数

処理時期 [*]	程 度	新 しょう 長			葉 数 (節 数)		
		処理時 (cm)	7/16 (cm)	12/16 (cm)	処理時	7/16	12/16
43日	3	51.3 [′]	59.3	45.6	10.5	6.1	6.4
	15	65.0	93.3	115.2	11.5	13.5	19.7
	30	59.3	92.6	128.3	12.3	15.0	24.3
80日	3	139.4	3.9	3.0	20.3	0.8	0.5
	15	157.5	16.0	42.3	21.5	2.9	8.4
	30	140.6	31.8	70.4	20.6	4.6	12.6
110日	3	139.1		53.7	23.3		9.6
	15	168.7		84.7	24.5		13.9
	30	155.6		104.0	21.3		18.8
無 処 理		60.8 [′]	84.6	105.1	12.6 [′]	16.6	20.6

^{*} 発芽後日数
[′] 5月16日調査

[その他]

研究課題名：落葉果樹の高品質果実生産手法の確立試験

予算区分：県単

研究期間：平成4年（平成4～8年）

研究担当者：林田誠剛、森田 昭

既発表論文等：平成4年度長崎県果樹試験場業務報告

残された問題点：新梢伸長抑制効果のある生長調節剤との組み合わせによるより効果的な枝管理法